



P26に
プレゼント
有

大和・森越選手による野球教室。バッティング、守備、走塁など、デモンストレーションを交えながら、野球の基礎を教わりました



女子走り高跳びで日本選手権2連覇中の渡邊有希選手が陸上教室を開催。技術だけでなく精神力の大切さも教わりました

今年は1月16日から23日まで、鹿屋市出身で阪神タイガースの大和選手と森越祐人選手が平和公園屋内練習場で自主トレーニングを実施しました。

期間中は、関西からも熱心なファンが訪れたほか、公開自主トレ日には全国紙やテレビなど10社を超えるマスコミが取材に訪れ、大きく報道されました。

また、小学生対象の野球教室も開催され、子どもたちは憧れのプロ選手の指導に目を輝かせながら指導を受けていました。

1月14日から21日には、J

リーグヴィッセル神戸の田中英雄選手（鹿屋体育大学卒業生）が、鹿屋体育大学で自主トレを行いました。

田中選手は、同大学でトレーニングを重ねる間に、花園学園を訪れ小学5・6年生と交流し、「夢授業」を行いました。

これは子どもたちに「夢を持つことの大切さ」を伝える授業で、参加した児童は普段聞くことのできないプロ選手の話に真剣に耳を傾け、自分自身を信じて、夢を持つことの素晴らしさを学びました。



▲スポーツ紙1面で大きく掲載

トップアスリートを誘致する効果

市では、このように市内で合宿を行うトップアスリートにセミナーを開催してもらい、本市の競技力向上のために貢献していただいています。

トップアスリートの誘致は、身近で一流のプレーを観戦し、指導を受けるといった貴重な機会を得ることができるほか、多くの来訪者やメディアを通じて、市の良好なイメージを発信することができます。



●平成27年度に鹿屋市を訪れたトップアスリート

合宿者	日程	交流事業
大野石油広島オイラーズ・15人 (バレーボール・VチャレンジリーグI)	8月11日～16日(6日間)	バレーボールセミナー
東北レイア・18人(女子プロ野球)	11月4日～9日(6日間)	野球教室
吉満大介、坂田良太(Jリーグ・栃木SC)	1月4日～7日(4日間)	サッカーセミナー
渡邊有希(陸上)、河合庄司、荒木美友、小竹莉乃、西木裕紀子、藤崎莉歩(プロゴルフ)	1月8日～15日(8日間)	陸上教室、ゴルフセミナー
田中英雄(Jリーグ・ヴィッセル神戸)	1月14日～21日(8日間)	「夢授業」
大和、森越祐人(プロ野球・阪神タイガース)	1月16日～23日(8日間)	野球教室

INTERVIEW

今回、Jリーグヴィッセル神戸の田中英雄選手の協力により「夢授業」を開催しました。

これは自分の夢をクラスメイトの前で話すもので、当初は戸惑っていた生徒たちが、田中選手や周りの児童たちの応援を受けて活気あふれる授業へと変わり、非日常が生み出す熱気を感じることができました。都会の子どもたちは、プロの試合を観戦したり、選手を見たりするなどの非日常が数多くありますが、鹿屋の子どもたちはそうはいきません。

私はスポーツによる交流活動を通して、非日常の生活を増やしていけるこのような取り組みを今後も続けたいと考えています。

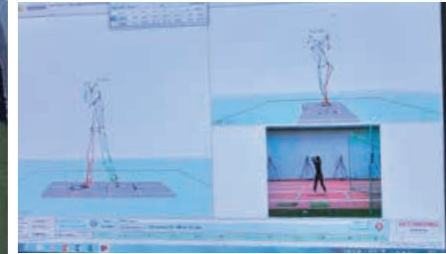
鹿屋市サッカー協会
理事長 笠茂 裕司さん



昨年9月に完成したスポーツパフォーマンス研究棟



▲全方位に専用カメラを配置し動作測定を行います



▲測定後は、選手の細かな動作の解析を行い、選手に提供します

鹿屋体育大学と連携してまちづくりを図る



鹿屋体育大学 教授
松尾 彰文 さん(63歳)

スポーツ合宿まちづくり推進事業を聞く

産学官連携による「スポーツ合宿まちづくり推進事業」は、鹿屋体育大学と鹿屋市観光協会、鹿屋市が連携して、プロスポーツ選手等の合宿・自主トレのメッカとなるまちづくりを推進し、地域活性化を図ろうとするもので、今年で6年目です。

鹿屋体育大学の松尾彰文教授に、連携事業による可能性について話を伺いました。

測定で選手をサポート

「大学では昨年完成したスポーツパフォーマンス研究棟を中心に測定・分析を行っています。国内最先端の研究設備のお陰で実戦に近い形で測定が可能となりました。現在はプロ・五輪選手のトップアスリートから、地元の小中高生まで多くのデータを収集しています。

測定は選手やコーチによって考え方が異なります。データを活用して一つ一つの動きを確認する人もいれば、必要としない人もいます。また、測定すると競技力が向上すると思われる人もいますがそうではありません。もし『科学の進歩』競技力」で

あれば、日本は多くの競技で世界的に活躍しているはずですが。また選手の能力は一人ひとり異なります。個々に合った指導が大切ですが、選手の動きは本人や実経験を積んだコーチの方がはるかに詳しいと思います。実際、科学的知見や支援が無くてもトップ選手を育てるコーチは大勢います。データがコーチの持つ経験値を覆すことはできません。

でも、私たちが選手やコーチに提供した結果が、日頃から疑問に感じていた微妙な感覚をデータで裏付けできて、納得感気分になります。

科学を現場で生かす

今後は現場で科学がどれ位貢献できるか挑戦したいですね。

スポーツパフォーマンス研究棟が世界に誇る最先端の設備!!



▲世界一長い測定走路。スピード・ピッチ・ストライド等を瞬時に測定



▲ピッチャーとバッターの動作を同時に測定可能な世界唯一の機器

今はまだ、測定結果が現場で生かされたのか十分に把握できていないため、科学的データをこのように活用したら成功した、失敗したと、指導の現場で得られた法則性をまとめたところを考えています。そうすれば競技専門の指導者でなくても、足の遅い子を早くするためのポイントを指導できるようにになります。この研究は全国レベルの選手である必要はありません。市内にも熱心な先生がいるので連携して取り組みたいですね。トップだけでなく、中間層を育てる人もいますし、体育授業で役立てられる部分もあります。健康づくりのため、走る時に気をつけなければならない事は何なのか、こうすれば早く走れる！という指標を出せる日を夢見て頑張ります。